

あいち歴史観光  
デジタルスタンプラリーが  
もっと楽しくなる

家族愛で知る  
武将のふるさと愛知

スマホで  
参加!

歴史の宝庫あいち

あいち歴史観光

ラ  
リ  
ー  
ス  
タ  
ン  
プ  
デ  
ジ  
タ  
ル

AICHI Historical Tourism

愛をたどり、歴史を知る

抽選で  
豪華賞品が  
当たりますぞ!

武将とお城と街道——

歴史の宝庫あいちをめぐる!

開催期間

2025 9.12 金 ~ 2026 3.11 水

# 乱世を生き抜く、戦国の家族愛。

戦国時代は親子、兄弟が敵対し、

骨肉の争いを繰り広げる出来事が各地で起こった。

その一方、家族で支え合い力を合わせ、

領国を守り、子孫繁栄に導いた親子、兄弟、夫婦もいた。

織田信長、豊臣秀吉・秀長、徳川家康をはじめ

個性豊かな武将や姫を輩出した(武将のふるさと愛知)にも

家族愛で乱世を生き抜いた家族たちがいた。

さあ、戦国の家族愛と彼らの足跡を訪ねてみよう。



## 目次

### 家族愛で知る武将のふるさと愛知

文・小和田哲男

#### 【尾張】

織田信長と久菴桂昌(生駒の方)の夫婦愛 ..... 03

#### 【名古屋】

豊臣秀吉と弟・秀長の兄弟愛 ..... 05

#### 【知多・西三河】

徳川家康と母・於大の親子愛 ..... 07

#### 【西三河】

徳川家康と祖父清康、父広忠の家族愛 ..... 09

#### 【東三河・西三河】

奥平信昌と家康長女・亀姫の夫婦愛 ..... 11

### 告知 あいち歴史観光デジタルスタンプラリー

～愛をたどり、歴史を知る～ ..... 13



寄稿文執筆

小和田 哲男

1944年静岡市生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程満期退学。現在、静岡大学名誉教授、文学博士。大河ドラマでは2014年「軍師官兵衛」、2017年「おんな城主 直虎」、2020年「麒麟がくる」、2023年「どうする家康」など8作品で時代考証を担当。著者に『徳川家康 知られざる実像』、『軍師・参謀—戦国時代の演出者たち』など。YouTube「戦国・小和田チャンネル」も配信中心。

①清洲(清須)城(清須市) ②織田信長公像(清須市) ③日吉丸となかまたち像(名古屋市) ④於大の方像(刈谷市) ⑤徳川家康公像(岡崎市)

# 織田信長と久菴桂昌(生駒の方)の夫婦愛

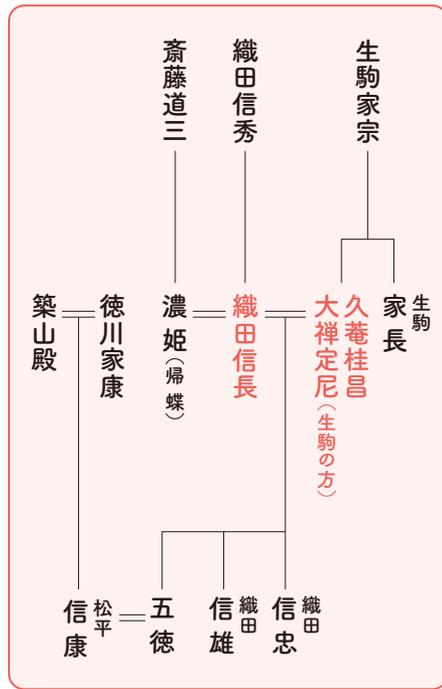
文・小和田 哲男

## 信長の正室

信長の正室は齋藤道三の娘濃姫である。ただ、濃姫という名は、美濃から来たお姫様に由来する愛称と考えられ、私が時代考証を担当した二〇二〇年の大河ドラマ「麒麟がくる」では江戸時代の地誌『美濃国諸旧記』に依拠して帰蝶で送した。

信長と帰蝶の結婚は天文十七年(一五四八)ないし翌年のことであるが、二人の間には子どもは生まれていない。また、彼女がいつまで

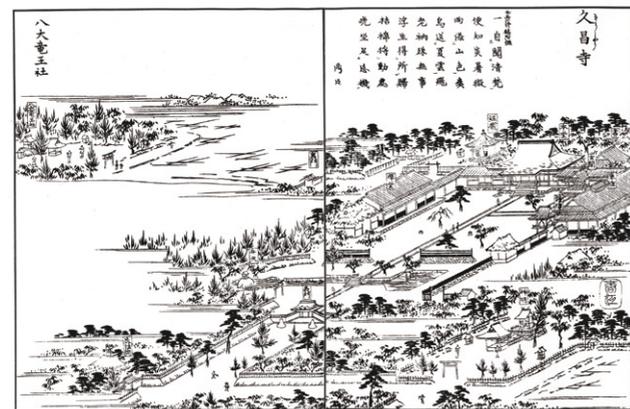
正室の座にあったのかもわかっていない。離縁されたのか、亡くなったのかもわかっていないのである。その帰蝶に代わって正室扱いを受けることになったのが久菴桂昌である。「武功夜話」では名を吉乃といったとするが、傍証史料はなく、尾張国丹羽郡小折(愛知県江南市)の土豪生駒家宗の娘ということから、生駒殿の名で知られている。彼女は、はじめ土田弥兵次という侍に嫁いだが、その弥兵次が弘治二年(一五五六)四月の長山城の戦いで戦死してしまったため、実家に送り返されていたという。生駒家宗の娘は二十歳で未亡人となったのであった。



## 信長の子を産む 久菴桂昌

あるとき、信長がその生駒家に立ち寄り、彼女が湯茶の接待をしたが、信長は、若いこの未亡人の美貌に魅せられてしまったという。すでに正室帰蝶との間に隙間風が吹いていたためか、このあと、信長は鷹狩りなどにことよせて、しばしば生駒屋敷を訪問するようになり、やがて、彼女は懐妊し、翌弘治三年(一五五七)には男子を出産する。信長の長男信忠である。このいきさつからも明らかかなように、信長は「妻問婚」で長男を得たことになる。

そのころには、信長も彼女を生駒屋敷に置いておくわけにはいかず、母子を清須城に引き取ったのであろう。あるいは、懐妊がはっきりした段階で清須城に招かれたかもしれない。



▲『尾張名所図会』に描かれた久昌寺(江南市提供):もとは龍徳寺という寺だったが、生駒の方の死後にその菩提を弔うため、戒名の「久菴桂昌大禅定尼」から名をとり久昌寺に改められた。令和4年(2022)に解体され現在は公園となったが、久菴桂昌大禅定尼をはじめ生駒氏一族の墓が残されている。



のぶながくん



**犬山城** 犬山市  
信長の叔父・織田信康が築城したと伝わる。信康の子と対立した信長は、永禄8年(1565)に城を攻略し、尾張統一を果たした。  
犬山市犬山北古券65-2 / ☎0568-61-1711



**小牧山城** 小牧市  
永禄6年(1563)、信長が美濃攻略の拠点として築城し、居城とした。近年の発掘調査に基づき山頂部の石垣群が復元された。  
小牧市堀の内1-1 / ☎0568-72-0712(小牧山歴史館)、0568-48-4646(れきしるこまき)



**岩倉城** 岩倉市  
応仁・文明の乱にともない尾張北部を支配した守護代・織田伊勢守家の居城。永禄2年(1559)\*3、信長に攻められ落城した。  
岩倉市下本町城址122 / ☎0587-38-5819(岩倉市生涯学習課)

\*3:信長の岩倉城攻めは永禄元年(1558)説もある。



**清洲(清須)城** 清須市  
天文23年(1554)\*2に織田信長が入城し、居城とした。信長はこの城を拠点に尾張統一を進めた。  
清須市朝日城屋敷1-1 / ☎052-409-7330

\*2:信長の清須入城は弘治元年(1555)説もある。



**小折城(生駒屋敷)跡** 江南市  
戦国時代、この地に勢力を持った生駒氏の屋敷跡。広大な規模を誇り小折城と呼ばれた。信長もしばしば訪れた。\*1  
江南市小折町八反畑147 / ☎0587-54-1111(江南市生涯学習課)

\*1:久菴桂昌の菩提を弔った久昌寺は廃寺となったが、跡地には生駒家代々の墓石が残されている。

あいち歴史観光  
デジタルスタンプラリーでめぐる

# 家族愛 スポット

尾張

# 豊臣秀吉と 弟・秀長の兄弟愛

文・小和田 哲男



ひでよしくん

異父兄弟か  
同父兄弟か

豊臣秀吉の生い立ちとして通説のように語られるのが、「織田信秀の鉄砲足軽木下弥右衛門の子として生まれ……」というフレーズであるが、この部分だけでも、二カ所まちがいがある。一つは、弥右衛門はまだ木下という苗字がなかった。木下という苗字は、秀吉がねねと結婚してからで、弥右衛門は苗字の無い百姓だったこと。もう一つは、弥右衛門が亡くなったのが天文十二年（一五四三）で、その年に鉄砲伝来があったことは周知の通りなので、弥右衛門が信秀の鉄砲足軽だったことはありえない。では、通説通り、秀長は秀吉とは父ちがいの弟なのだろうか。『太閤素生記』は、弥右衛門の死後、母が筑阿弥（竹阿弥とも）と再婚し、秀長が生まれたとしているが、秀長の生まれは天文九年（一五四〇）といわれているので、弥右衛門生存中である。同父兄弟とするのが妥当と思われる。

兄秀吉のブレーキ役として

秀長がいつ、兄秀吉に呼ばれて武家奉公をするようになったのかははっきりしていない。文書上、「羽柴小一郎長秀」と出てくるのが天正元年（一五七三）なので、その頃であろう。ちなみに、はじめは秀長ではなく、名乗りは長秀だった。織田信長から「長」の一字を与えられたわけで、秀吉に仕えるのではなく、信長家臣の一人としてスタートしたことになる。

『信長公記』に、翌天正二年（一五七四）の信長の伊勢長島攻めで、秀長が羽柴軍を率いていたことがみえる。このとき、秀吉自身は越前に出陣中で、弟秀長がその分身としての役割を果たしていたことがわかる。同五年（一五七七）、秀吉が上杉謙信との戦いのとき、柴田勝家と意見が合わず、途中で戦線離脱をし、信長から蟄居謹慎を命じられたことがあった。そのとき、秀吉に代わって播磨に乗り込み、黒田官兵衛らと作戦を練るといこうと



▲豊國神社の側の緑地に立つ日吉丸となかまたちの銅像（名古屋市）。少年時代の秀吉とそのなかまたちを立像化した。

もあった。また、同十三年（一五八五）の四国攻めでは、病気で出陣できない秀吉に代わって、総大将を務めており、秀吉としても、最も頼りにするのが弟秀長だった。それだけではない。どちらかといえば、秀吉は軽挙妄動型で、暴走しがちだった。その暴走しがちな秀吉に対し、ブレーキ役を果たしたのが弟秀長であった。のちに豊臣政権の屋台骨を崩す結果となるあの朝鮮出兵に、最後まで反対していたのが秀長だったのである。秀長死後、秀吉の朝鮮出兵がはじまる。



太閤山 常泉寺  
豊臣秀吉の生誕地のひとつとされる。境内には誕生の際に使われた「豊太閤産湯の井戸」や、秀吉ゆかりの「御手植えの柊」がある。  
名古屋市中村区中村町字木下屋敷47



豊國神社  
豊臣秀吉を御祭神として祀り、秀吉生誕伝承地に隣接して創建された。秀吉にちなみ開運、出世のご利益で知られる。  
名古屋市中村区中村町字木下屋敷中村公園内



日之宮神社  
もとは日吉権現と称した。秀吉母が男子誕生を祈願し、日参したという。「日吉丸生母祈願之碑」が残る。  
名古屋市中村区日ノ宮町1-30-28

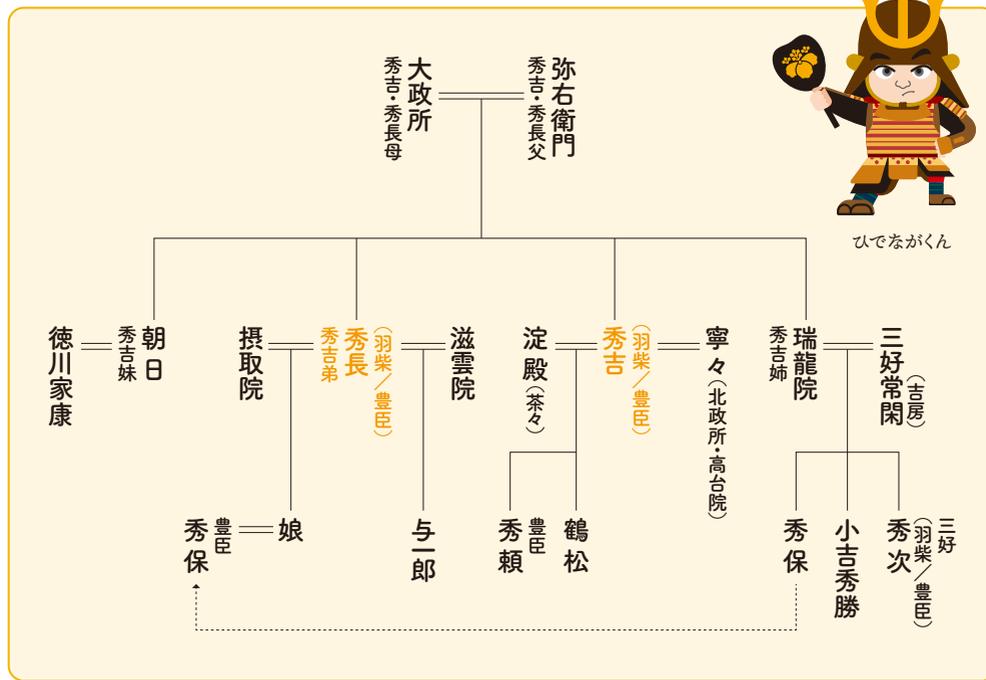


下中八幡宮  
秀吉の氏神とされる。小田原攻めの帰路、秀吉はこの近くで故郷の人々に大盤振る舞いしたと伝承を残す寺社もある。  
名古屋市中村区押木町1-1

あいち歴史観光  
デジタルスタンプラリーでめぐる  
**家族愛**  
スポット  
名古屋



正悦山 妙行寺  
秀吉母の従妹を母に持った加藤清正の生誕地とされる。清正が両親や祖先の菩提のために移築再建した。  
名古屋市中村区中村町字木下屋敷22



ひでながくん



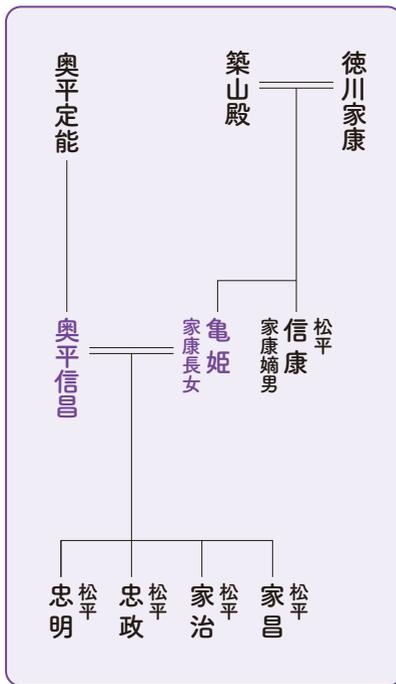


# 奥平信昌と 家康長女・亀姫の夫婦愛

文・小和田 哲男

家康お声かか  
りの  
結婚

奥平信昌は、山家三方衆の一人  
で、元亀元年（一五七〇）の近江姉  
川の戦いでは父定能とともに出陣  
しているが、その後、武田方となっ  
ていた。家康は、奥平父子を味方に  
つけるべく、天正元年（一五七三）  
八月二十日、定能・信昌父子に起請  
文を提出し、信昌に娘の亀姫を嫁  
がせるとしている。  
結局、定能・信昌父子は徳川方と



なり、同三年（一五七五）五月の長  
篠・設楽原の戦いで、信昌は長篠城  
に籠城し、武田勝頼を倒すことに  
なる。家康は約束通り、娘の亀姫を  
信昌に嫁がせている。亀姫十七歳、  
信昌は二十二歳だった。夫婦仲は  
良く、翌天正五年には長男家昌が  
生まれている。  
このあと、信昌は家康の戦いの  
多くに参陣し、同八年（一五八〇）の  
遠江高天神城の戦い、同十年の甲  
州攻め、同十二年の小牧・長久手の  
戦い、同十八年の小田原攻めにも  
従軍し、戦功をあげている。慶長五  
年（一六〇〇）の関ヶ原の戦い後に  
は京都所司代にも就任している。  
慶長六年には、上野宮崎三万石か  
ら美濃加納十万石に転じている。

加納姫様と  
恐れられる

加納城は現在、岐阜市加納丸の  
内に所在し、平城で、このとき、奥  
平信昌によって本丸二の丸・三の  
丸が築かれている。本丸北西部に  
天守台があるが、天守があったか  
どうかは不明という。加納周辺に

興味深い話が伝えられている。子  
どもがぐずって、言うことを聞か  
ないとき、親が一言、「かな姫様が  
くるぞ」というと、子どもがぐずら  
ず、言うことを聞いたというので  
ある。実は、その「かな姫様」が加納  
姫様、すなわち、城主奥平信昌の奥  
方だという。家康の娘というプラ  
イドがあり、すけすけ思いうことを  
言っていたのかもしれないし、や  
やかかあ天下気味なところがあっ  
たことから、このような話が生ま  
れたのかもしれない。

なお、奥平信昌は元和元年（一六  
一五）三月十四日に加納城で七く  
なっているが、亀姫は寛永二年（一  
六二五）五月二十七日に七くなっ  
ている。ちなみに、奥平家はのち、  
豊前中津に転じている。一説に、元  
和八年（一六二二）の宇都宮釣り、天  
井事件は、亀姫が関わり、弟の二代  
將軍秀忠に働きかけて本多正純を  
改易に追いやったともいう。



▲設楽原に立つ復元馬防柵（新城市）。長篠城での信昌の敢闘は、設楽原での織田・徳川連合軍の勝利につながった。



**青龍山 松永寺** **豊川市**  
長篠城攻防戦の際、家康のもとに救援の伝令に  
向かった鳥居強右衛門の生誕地の石碑と磔姿  
の木像が安置されている。  
豊川市市田町中之島57 / ☎0533  
-86-4577



**武節城** **豊田市**  
長篠の戦いに敗れた武田勝頼が逃走途中に立ち寄ったと  
される。その後、城は奥平信昌らによって攻略され、信昌が  
領有した。天正18年（1590）に家康に従い関  
東移封後に廃城となった。豊田市武節町シ  
ロ山 / ☎0565-83-3200（しなぶ観光協会）



**宝乗山 大善寺** **新城市**  
奥平信昌に嫁いだ亀姫の発願により建立された。  
亀姫との縁から寺紋には葵の紋が特別に許された。  
境内には亀姫の墓も建てられている。  
新城市西入船22 / ☎0536-22-  
1473



**設楽原歴史資料館** **新城市**  
長篠・設楽原の戦いの決戦場を望む丘陵地に  
建つ。戦いの経緯、火縄銃の役割、さまざまな種  
類の火縄銃を展示する。  
新城市竹広字信玄原552 / ☎0536  
-22-0673



**長篠城** **新城市**  
天正3年（1575）の長篠城攻防戦では武田軍の猛  
攻に対し、奥平信昌が守守した。土塁、堀が残るほ  
か、長篠城址史跡保存館も見どころ。  
新城市長篠字市場22-1 / ☎0536-  
32-0126（長篠城址史跡保存館）

あいち歴史観光  
デジタルスタンプラリーでめぐる

# 家族愛 スポット

東三河・西三河

告知



スマホで参加!



開催期間 2025 9.12(金) ~ 2026 3.11(水)

参加はこちら



武将とお城と街道— 歴史の宝庫あいちをめぐる!

愛知県は、織田信長、豊臣秀吉・秀長、徳川家康ら三英傑をはじめ個性豊かな武将や姫たちを輩出した「武将のふるさと」であり、歴史に名を刻んだ天下の名城や山城がそろう、古の旅人たちが歩んだ街道・宿場町散策も楽しい、歴史の宝庫。さあ、歴史の舞台を訪ね、スタンプを集め、愛知のお宝を当てよう!



対象は本冊子掲載スポットを含む全145スポット!

「あいち歴史観光デジタルスタンプラリー」は、愛知県内にある武将・お城・街道スポットをめぐるデジタルスタンプラリー。期間内に対象スポットに訪れ、スタンプをGET! 達成条件とスタンプ数に応じて愛知のお宝(賞品)が当たる抽選に応募しよう!

さらに! 2026.1.24(土) 豊臣スペシャルコース登場!

STEP 1



エントリー(参加)はこちら



専用サイトでエントリー!

参加方法

STEP 2



スポットへ行き、スタンプゲット! (※位置情報をオンにしてください)

※スマホ内の画像はイメージです

STEP 1



スタンプ数達成後、各賞品の応募画面へ移動

賞品への応募方法

STEP 2



フォームに必要事項を入力し、応募完了! (※応募は1エントリー1回のみ)

※スマホ内の画像はイメージです

<p>千成ひょうたん賞</p> <p>3名</p> <p>ホテルインディゴ犬山有楽苑 3万円商品券</p> <p>尾張・名古屋・知多・西三河・東三河の5エリアから各1カ所以上、計50カ所を訪問で応募可能</p>	<p>天下人賞</p> <p>応募者全員</p> <p>あいち歴史観光デジタルスタンプラリー オリジナル量コースター</p> <p>全スポットのスタンプを獲得し応募で必ずもらえる</p>	<p>一国一城主賞</p> <p>10名</p> <p>みかわ牛すき焼き用 4名様分 ※1万円相当</p> <p>5エリアから各1カ所以上、計30カ所を訪問で応募可能</p>	<p>侍大将賞</p> <p>40名</p> <p>あいち歴史観光オリジナルキャップ</p> <p>10カ所訪問で応募可能</p>	<p>足軽賞</p> <p>100名</p> <p>あいち歴史観光オリジナル巾着</p> <p>5カ所訪問で応募可能</p>
---	---	---	---	--

※賞品画像はイメージです

●注意事項 ※本サービスは、iPhoneの場合 iOS12以降 + Safari(ブラウザ)、Androidの場合 Android 6.0以降 + Chrome(ブラウザ)での動作保証をしています。それ以外のブラウザでは利用できない場合があります。※フィーチャーフォン、PCおよびタブレットは非対応です。※ご参加の際はCookieの受け入れ設定を有効にしてください。無効のままご参加されると、スタンプ情報が保持されませんのでご注意ください。※GPS機能がない端末、およびGPS機能を「オン」にしない端末、ブラウザの位置情報をブロックした場合、スタンプを取得できませんのでご注意ください。※デジタルラリーへの参加は無料ですが、通信料は参加者様のご負担となります。※デジタルラリーの内容は予告なく変更される場合がありますので、ご了承ください。※QRコードは、(株)デンソーウェブの登録商標です。

お問い合わせ先

ラリースポットとなっている施設等では、スタンプラリーに関するご質問はお答えしかねます。ご質問等は下記お問い合わせ先にご連絡ください。

あいちの歴史観光推進協議会デジタルスタンプラリー事務局

TEL 052-265-7612 午前10時~午後5時(土曜日・日曜日・祝日・年末年始を除く)

MAIL aichi-rekishi-rally@adjust-inc.jp

参加方法など詳しくはこちら

スタンプラリー特設サイト



FAQ よくある質問

